

クルマを評価するアイテムとして、穴くぐりできない「パッケージング」。これを単に室内寸法のことだけだと思いがちであるが、実はある程度、どんなに誤解だ。

人を正しいカタチで座らせ、エンジンをどこに置き、トランスミッションをど

レガシイのパッケージング キーワードは水平対向縦置き4気筒エンジン

軽量

コンパクト

低重心

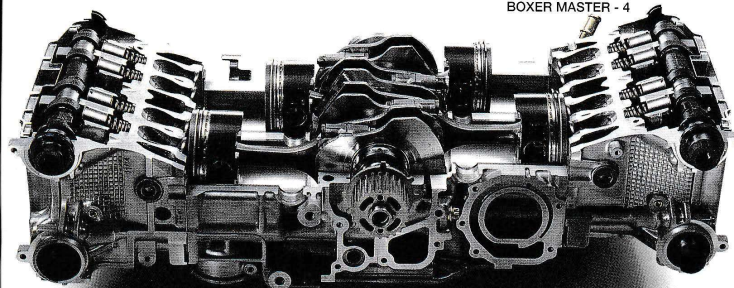
そのセオリー通りに開発されているのがレガシイだ。視界をしっかりと確保したドライブング・ポジションはもとより、後席のヒップポイントを前席のヒップポイントより高くするという大原則もきちんと押さえている。

キーワードは水平対向縦置き4気筒、BOXERという名のユニークなエンジン。そのメリットをフルに活かした開発コンセプト、熟成という技術の積み重ね……それが一つのレガシイというカタチになった。

パッケージングの良さが走りの良さや高い安全性につながる

パッケージングの良さがレガシイの魅力だが、その代表例をいくつか紹介しよう。

その1 前後・左右の重量バランスに優れた独自の4WDシステム
軽量・コンパクト・低重心な水平対向



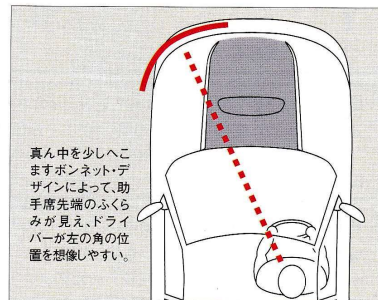
BOXER MASTER - 4

“パッケージング”って単なる室内空間のこと？

その2 世界の良き視界の良き

縦置き4気筒エンジンを中心に、トランスミッション、プロペラシャフト、リヤデフアレンジャーを一直線に、しかも左右対称にレイアウトした独自のSUBARU 4WDシステム。一目瞭然のバランスの良さが、優れた基本的運動性能をうかがわせる。しかも普通はエンジンの前に置かざるを得ない重量のあるターボも、どちらかというとエンジンの後ろ側にレイアウトできるからフロントヘビーにならず、重量バランスはますますいい。レガシイの走りの良さは水平対向縦置きエンジンにある。

その3 衝突安全でも優れたメリットを発揮
やむを得ず衝突となった場合、エアバッグやクラッシュパブリティだけでなく、エンジンがどう動くかという動きに対することも重要な問題だ。この点でも、水平対向縦置きエンジンのメリットは大きい。前からぶつかっただけの場合、BMWやメルセデスやアウディのように、フロアの下にエンジンとミッションがスライドして落ちていくというシステムがとれる。衝突の衝撃を、エンジンが動いて逃げる吸



真ん中を少しへこませますボンネット・デザインによって、助手席先端のふくらみが見え、ドライバーが左の角の位置を想像しやすい。

よけたりするABS、それでもぶつかり始めたらバンパーやエアバッグ、クラッシュパブリティ等の出番となる。

運転はまず目で情報を収集し、それを頭でどうするか判断し、ハンドルやアクセル、ブレーキの操作をし、それを繰り返していく。だから視界は、アクティブセーフティの非常に重要なアイテムになる。

最近のクルマはスタイリング重視のためか、ピラーが覆って邪魔になり、ボンネットも丸い形状のため、色々なクルマの運転に慣れているボクでも車幅感覚がつかみにくいことが多い。それに比べて、レガシイの視界の良さは特筆ものだ。水平対向縦置きエンジンのメリット

を活かして、無駄な盛り上がりを押さえたボンネットは、トップクラスの可視率見えない部分が20%という脅威の数値だ。またレガシイはハンドルを握って真正面から右方向30度のエリアまで見えるよう設計されているが、そういうクルマは日本でも、いや世界でも数少ない。これなら、ワインディング・ロードでもワインディング・ロードを通してカーブの先まで見える。

さらにワゴンでもOピラー、Dピラーの位置と角度、ピラーの幅を細くする等深く計算されている。だから三車線の高速道路でも、隣車線、さらにもう一つ向こうの車線まで見える。もちろん、幅を細くしたピラーは二重構造、三重構

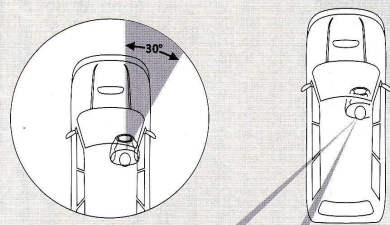
造で補強されている。ワゴンでもリヤの視界は充分だ。アクティブセーフティの基本中の基本をピシッと押さえて、さすがに走りのレガシイの名に恥じない。

その3 衝突安全でも優れたメリットを発揮

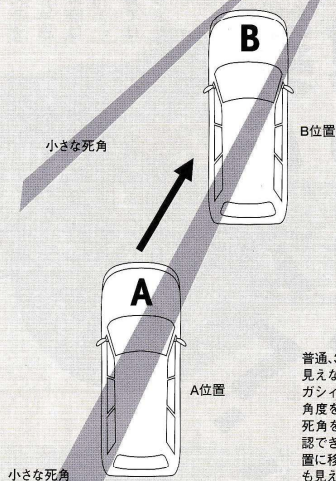
やむを得ず衝突となった場合、エアバッグやクラッシュパブリティだけでなく、エンジンがどう動くかという動きに対することも重要な問題だ。この点でも、水平対向縦置きエンジンのメリットは大きい。前からぶつかっただけの場合、BMWやメルセデスやアウディのように、フロアの下にエンジンとミッションがスライドして落ちていくというシステムがとれる。衝突の衝撃を、エンジンが動いて逃げる吸

収するというわけだ。また正面衝突のケースで多いといわれるオフセット衝突でも、左右対称の水平対向縦置きエンジンなら、左右差がないため、右側、左側の衝突の違いで、差が出るということはない。片側に大きなエンジンブロック、片側にトランスミッションといったレイアウトのクルマより、はじけから条件がいいこともおわかりいただけると思う。しっかりとしたクルマ造りの考えから生まれ、徹底的に論議し尽くして素晴らしいパッケージングを実現したレガシイ。

あなたの乗っているクルマには、そのクルマ造りの考え方が見えますか？



右方向30°のエリアまで見える。



普通、3車線目のA位置の車は見えない可能性が高いが、レガシイはピラーの幅と位置と角度を工夫することによって死角を小さくしているためで視認できる。3車線目の車がB位置に移動して、近寄ってくるの見える。

知的クルマ選びのポイント

1 パッケージングがしっかりしているかどうかは、後ろのシートのヒップポイントでもわかる。レガシイのように後席のヒップポイントが前席よりも高く、後ろに座って気持ちのいい視界が得られ、ヘッドクリアランスも確保されていれば合格だ。

2 レガシイは抜群の視界の良さを待つ世界でも珍しいクルマだ。ボンネットの見えない部分が20%というのは脅威の数値。また、ハンドルを握って真正面から右方向30度のエリアまで見えるように設計されているクルマは、日本どころか世界でも数少ない。ワインディング・ロードを走るとその違いがよくわかる。視界の良さは、アクティブセーフティの原点でもある。

3 ワゴンでレガシイほど視界のいいクルマはない。特に後方視界。イラストのように、3車線の高速で追い越し車線走り、一番外側の車線走るクルマが見えるかどうか。ぜひ、チェックしてみてください。

4 レガシイはコンパクトな水平対向縦置きエンジンだから、前からぶつかっただけの場合、フロアの下にエンジンとミッションがスライドして落ちていくというシステムがとれる。衝突の衝撃を、エンジンが動いて逃げる、吸収するというのは縦置きエンジンのメリットで、BMWやメルセデスにも例がある。